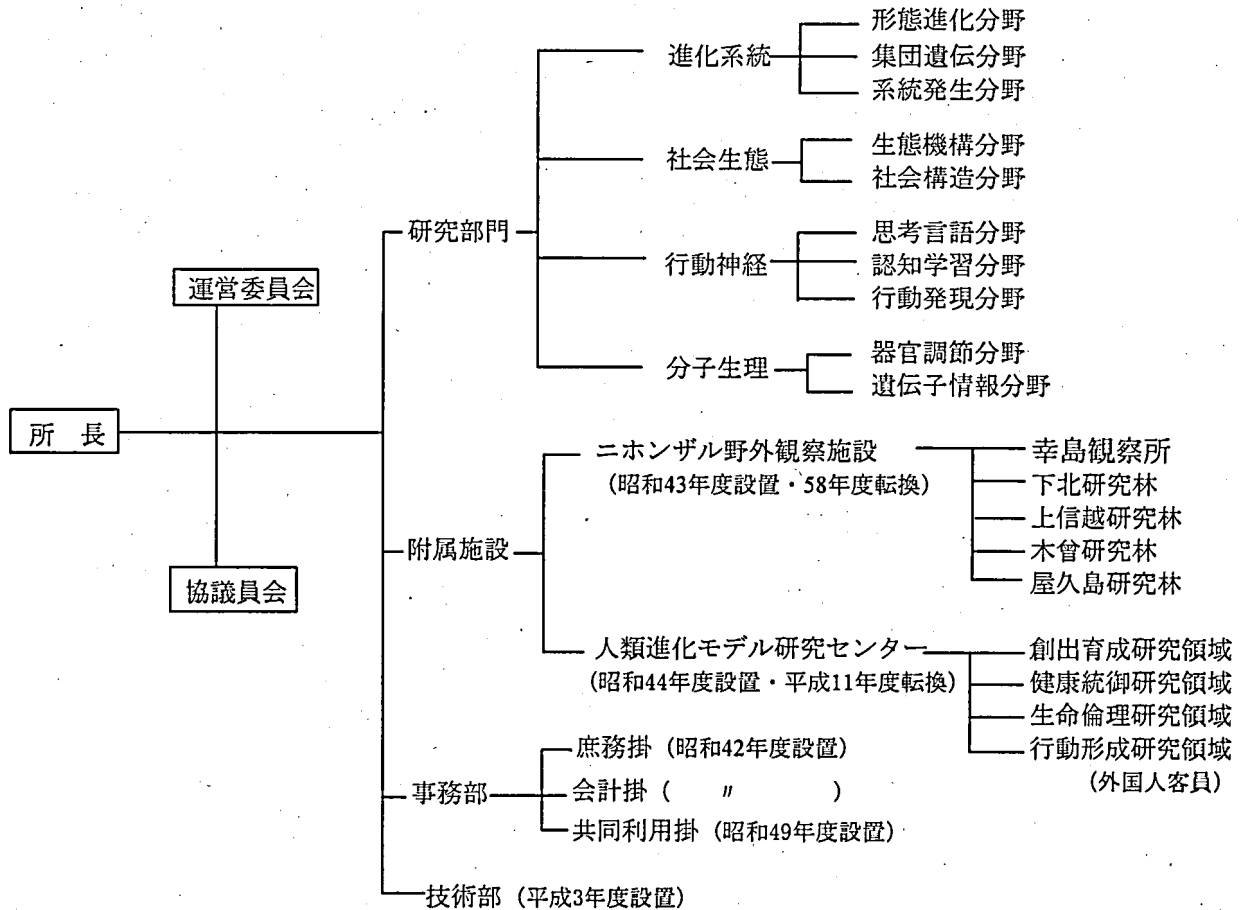


II. 研究所の概要

1. 組織

(1) 組織の概要 (2003年(平成15年)3月30日現在)



所長	小嶋 祥三	(宮城教育大学教育学部附属環境教育実践研究センター 教授)
運営委員	伊澤 紘生	(東京大学大学院理学系研究科 教授)
(順不同)	木村 賛	(東海学園大学人文学部 教授)
	杉山 幸丸	(東京大学総合研究博物館 助教授)
	諏訪 元	(東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)
	吉川 泰弘	(京都大学大学院理学研究科 教授)
	石田 英實	(京都大学大学院理学研究科 教授)
	西田 利貞	(霊長類研究所 教授)
	茂原 信生	(霊長類研究所 教授)
	竹中 修	(霊長類研究所 教授)
	松沢 哲郎	(霊長類研究所 教授)
事務長	福井 秀昭	

教授	助教授	助手	外国人研究員	事務官	技官	小計	非常勤(日々)	非常勤(時間)	合計
12	13	15	1	9	13	63	1	67	131

博士課程	修士課程	外国人共同研究者	研修員	特別研究員	受託研究員	研究生	合計
25	15	1	1	2	1	2	47

(2) 所内連絡先一覧

形態進化分野 Tel/Fax: 0568-61-5775

片山 一道	katayama@pri.kyoto-u.ac.jp
濱田 穰	hamada@pri.kyoto-u.ac.jp
毛利 俊雄	mouri@pri.kyoto-u.ac.jp
國松 豊	kunimats@pri.kyoto-u.ac.jp
早川 清治	hayakawa@pri.kyoto-u.ac.jp
水谷 典子	nmizutan@pri.kyoto-u.ac.jp

集団遺伝分野 Tel/Fax: 0568-62-9554

庄武 孝義	shotake@pri.kyoto-u.ac.jp
川本 芳	kawamoto@pri.kyoto-u.ac.jp
田中 洋之	htanaka@pri.kyoto-u.ac.jp
澤村 育栄	sawamura@pri.kyoto-u.ac.jp

系統発生分野 Tel/Fax: 0568-63-0536

茂原 信生	shigehar@pri.kyoto-u.ac.jp
相見 満	aimi@pri.kyoto-u.ac.jp
高井 正成	takai@pri.kyoto-u.ac.jp
本郷 一美	hitomi@pri.kyoto-u.ac.jp
佐藤 阿佐子	asako@pri.kyoto-u.ac.jp

生態機構分野 Fax: 0568-63-0565

上原 重男	uehara@pri.kyoto-u.ac.jp
M.A.Huffman	huffman@pri.kyoto-u.ac.jp
永田 礼子	nagata@pri.kyoto-u.ac.jp

社会構造分野 Fax: 0568-63-0564

森 明雄	mori@pri.kyoto-u.ac.jp
大澤 秀行	ohsawa@pri.kyoto-u.ac.jp
杉浦 秀樹	sugiura@pri.kyoto-u.ac.jp
真方 栄子	makata@pri.kyoto-u.ac.jp

思考言語分野 Fax: 0568-62-2428

松沢 哲郎	matsuzaw@pri.kyoto-u.ac.jp
友永 雅己	tomonaga@pri.kyoto-u.ac.jp
田中 正之	mtanaka@pri.kyoto-u.ac.jp
酒井 道子	sakai@pri.kyoto-u.ac.jp

認知学習分野 Fax: 0568-62-9552

正高 信男	masataka@pri.kyoto-u.ac.jp
泉 明宏	izumi@pri.kyoto-u.ac.jp
南雲 純治	nagumo@pri.kyoto-u.ac.jp
新谷 さとみ	araya@pri.kyoto-u.ac.jp

行動発現分野 Fax: 0568-63-0563

三上 章允	mikami@pri.kyoto-u.ac.jp
中村 克樹	knakamur@pri.kyoto-u.ac.jp
脇田 真清	mwakita@pri.kyoto-u.ac.jp
三輪 隆子	tmiwa@pri.kyoto-u.ac.jp
鈴木 冬華	ysuzuki@pri.kyoto-u.ac.jp

器官調節分野 Tel/Fax: 0568-63-0576

林 基治	hayashi@pri.kyoto-u.ac.jp
目片 文夫	mekata@pri.kyoto-u.ac.jp
大石 高生	toishi@pri.kyoto-u.ac.jp
清水 慶子	shimizu@pri.kyoto-u.ac.jp
金武 ひろみ	kanetake@pri.kyoto-u.ac.jp

遺伝子情報分野 Fax: 0568-62-9557

竹中 修	takenaka@pri.kyoto-u.ac.jp
平井啓久(兼)	hirai@pri.kyoto-u.ac.jp
中村 伸	snakamur@pri.kyoto-u.ac.jp
浅岡 一雄	asaoka@pri.kyoto-u.ac.jp
宮田 正代	miyata@pri.kyoto-u.ac.jp

ニホンザル野外観察施設 Fax: 0568-62-9575

渡邊 邦夫	watanabe@pri.kyoto-u.ac.jp
室山 泰之	muroyama@pri.kyoto-u.ac.jp
阿部 恵	abe@pri.kyoto-u.ac.jp
幸島観察所	Tel: 0987-77-0045/Fax: 0987-77-0251
屋久島研究林	Tel/Fax: 09974-5-2074

人類進化モデル研究センター Fax: 0568-62-9559

松林 清明	kmatsuba@pri.kyoto-u.ac.jp
景山 節	kageyama@pri.kyoto-u.ac.jp
S. Srikantha	kantha@pri.kyoto-u.ac.jp
平井 啓久	hirai@pri.kyoto-u.ac.jp
上野 吉一	okuma@pri.kyoto-u.ac.jp
後藤 俊二	goto@pri.kyoto-u.ac.jp
鈴木 樹理	suzuki@pri.kyoto-u.ac.jp
松林 伸子	nmatsuba@pri.kyoto-u.ac.jp
熊崎 清則	kumazaki@pri.kyoto-u.ac.jp
阿部 政光	Tel: 63-0588
釜中 慶朗	kamanaka@pri.kyoto-u.ac.jp
前田 典彦	maeda@pri.kyoto-u.ac.jp
加藤 朗野	akino@pri.kyoto-u.ac.jp
森本 真弓	marimo@pri.kyoto-u.ac.jp
梅田 恵子	umeda@pri.kyoto-u.ac.jp
小林 陽子	youko@pri.kyoto-u.ac.jp

事務部 Fax: 0568-63-0085

事務 長	jimuchou@pri.kyoto-u.ac.jp
庶務 掛	shomu@pri.kyoto-u.ac.jp
共同利用掛	kyodo@pri.kyoto-u.ac.jp
会計 掛	kaikai@pri.kyoto-u.ac.jp
図書 室	toshou@pri.kyoto-u.ac.jp

2. 予算概況

(1) 2002年度(平成14年度)経費および研究費取得状況

経費		(単位：千円)	研究費取得状況		(単位：千円)
	人件費	528,206		教育研究学内特別経費	
物件費	校費	172,247	校費	外国人研究員経費	1,485
	産学連携等研究費	35,489		国際シンポジウム経費	1,385
	施設整備費	24,953		計	2,870
	計	760,895		科学研究費補助金(29件)	216,100
科学研究費補助金(29件)		216,100	奨学寄付金(8件)		11,705
合計		976,995	合計		230,675

(2) 2002年度(平成14年度)文部科学省科学研究費補助金 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金額 (千円)	研究課題
COE形成基礎	竹中 修	90,000	類人猿の進化と人類の成立 (Evolution of Apes and the Origin of Human)
特定領域(A)(2)	浅岡一雄	4,700	内分泌攪乱物質のヒトへの影響を外挿するためのサルを用いた研究
特定領域(A)(2)	林 基治	4,000	霊長類 (マカクサル) 大脳皮質の発達におけるニューロトロフィンとその受容体の役割
特定領域(A)(2)	中村克樹	5,200	サル頭頂連合野における異種感覚情報の統合機序の研究
特定領域(A)(2)	清水慶子	2,100	植物性エストロゲン様物質が霊長類の神経内分泌機構に及ぼす影響
特別推進(2)	松沢哲郎	33,000	認知と行動の霊長類的基盤
基盤研究(A)(1)	濱田 穰	13,200	ヒトを含む霊長類におけるロコモーションの発達・加齢
基盤研究(A)(1)	片山一道	9,600	ラピタ人からポリネシア人への変容過程を探る先史学的研究
基盤研究(B)(1)	本郷一美	4,400	動物遺存体分析による西アジア史再編：家畜化から遊牧的対応の成立まで
基盤研究(B)(2)	正高信男	2,600	ヒトを含む霊長類における音声情報の認知発達：言語と音楽を用いた比較認知研究
基盤研究(B)(2)	小嶋祥三	2,500	チンパンジーの聴覚と音声に関する研究
基盤研究(B)(2)	川本 芳	4,000	霊長類の異種交雑にともなう遺伝的変化の研究
基盤研究(B)(2)	中村克樹	3,300	老化に伴う認知機能低下の特性の解明
基盤研究(B)(2)	景山 節	7,700	脊椎動物ペプシノゲンの多様性に関する酵素機能の特異性とゲノム解析
基盤研究(B)(2)	平井啓久	2,200	マンソン住血吸虫における全BACクローンの染色体マップの完成
基盤研究(B)(2)	森 明雄	4,200	重層社会を作るヒヒ類の社会生態学的、集団遺伝的研究
基盤研究(B)(2)	三上章允	5,100	ジャワ島におけるカニクイザル視物質遺伝子の多様性に関する研究
基盤研究(B)(2)	茂原信生	3,500	東南アジア地域における第三紀霊長類の進化的研究
基盤研究(B)(2)	平井啓久	3,700	アジルテナガザルの亜種分化に関する総合調査
基盤研究(B)(2)	清水慶子	1,200	内分泌攪乱物質がサル胎児期の脳の発生・発達におよぼす影響
基盤研究(B)(2)	友永雅己	1,200	社会的認知の知覚的基盤：比較認知からのアプローチ

研究種別	研究代表者	金額 (千円)	研究課題
基盤研究(B)(2)	高井正成	1,000	新生代後半のユーラシア大陸における化石霊長類の進化に関する総合的研究
若手(B)(2)	杉浦秀樹	1,300	群れの空間構造・個体の行動から群れ全体の構造を探る
特別研究員奨励費	泉 明宏	1,200	霊長類の聴覚における知覚的体制化の研究
特別研究員奨励費	田代靖子	1,200	分子生物学的手法を用いたチンパンジーの社会構造の比較と種分化に関する研究
特別研究員奨励費	高橋弘之	1,200	野生オランウータンの保全のための遺伝学的、採食、生態学および繁殖生理学的研究
特別研究員奨励費	加藤啓一郎	1,000	嫌悪刺激および報酬に関わる帯状回吻側部とその線維連絡部位の役割
特別研究員奨励費	小嶋祥三	300	ニホンザルの種特異的音声の知覚に関する研究
特別研究員奨励費	松沢哲郎	1,500	チンパンジーの認知と行動：人間の知性の進化的起源を探る試み
合計	29件	216,100	

※金額は、間接経費を除く

(3) 2002年度(平成14年度)研究補助金等内訳一覧 (文部科学省科学研究費補助金以外)

補助金等種別	研究代表者	金額 (千円)	使途
(財) 平和中島財団	中村 伸	1,960	マカクサルBウイルスのPCR検出・同定法ならびに遺伝子ワクチンの確立とそれらの実用化
(財) 不二たん白質研究振興財団	中村 伸	980	大豆成分による高脂血症および動脈硬化への予防・治療効果の作用機序
平井啓久 (米国ニューヨーク州立大)	平井啓久	3,571	マンソン住血吸虫ゲノムプロジェクト：BACクローンの染色体マッピング
(財) 石田財団	田中洋之	1,421	霊長類学に関する研究助成
(社) 電子情報技術産業協会関西支部	小嶋祥三	245	霊長類学に関する研究助成
極東製薬工業(株)	景山 節	980	霊長類学に関する研究助成
協和発酵工業(株)医薬総合研究所	中村 伸	2,450	サルモデルでのアレルギー研究
松波硝子工業(株)	浅岡一雄	98	霊長類学に関する研究助成
合計	8件	11,705	

※寄附金額は、全学共通経費(2%)を控除した金額

3. 図書

2003年3月末現在、本研究所図書室に所蔵されている資料は、以下のとおりである。

(1) 蔵書冊数(製本雑誌を含む)

和書： 6,602冊
 洋書： 14,415冊
 合計： 21,017冊

(2) 別刷点数

別刷： 73,246点

(3) 和文雑誌・新聞および中国文雑誌リスト

雑誌名	所蔵巻号	期間
アフリカ研究 (アフリカ研究会)	1(1-2)	1963-1964
アフリカ研究 (日本アフリカ学会)	1-30	1964-1987
母性衛生	26(1-2, 4), 27-29	1985-1988
治療学	7(5-6), 8(3, 6), 9(1, 3, 6), 11(1, 6), 15(5)	1981-1985
Clinical Neuroscience : 月刊臨床神経科学	1(3), 2(3-4, 6-12), 3	1983-1985
第四紀研究	1(2-4, 6-7), 2-3, 4(2-4), 5-7, 9(2), 10-11, 12(1, 4), 13(3), 14, 15(2), 16(3), 17(2), 18(2, 4), 19, 20(1-2), 21(1, 3-4), 22(1-2, 4), 23-28, 29(2)	1958-1990
動物学雑誌	69-71, 79(11-12), 80-92	1960-1983
動物生理	1-4, 5(1-3), 6(1)	1984-1989
動物心理学研究	40-50	1990-2000
動物心理学年報	17(2), 18-24, 25(1), 26-30, 31(1), 32, 33(1), 34-39	1967-1989
ドクメンテーション研究	23-29, 30(1-3)	1973-1980
ファルマシア	22-26	1986-1990
学術月報	21(10, 12), 22-55+	1969-2002
学術の動向	1-7+	1996-2002
言語	3(10, 12), 5, 6(1-6, 8-13), 7-18, 19(1-6, 8-12), 20-31+	1976-2002
ホルモンと臨牀	19-32, 33(1-3, 5-12), 34(1-6), 35-37, 38-40, 41(1-2, 4-12), 42(1-5, 7-12), 43(1-2, 5-12), 44-45, 46(1-6, 8-12), 47-50+	1971-2002
遺傳	30(6-11, 13), 31-56+	1976-2002
週刊醫學のあゆみ	71(9), 75(5-13), 76-80, 81(1), 98(9), 127(5)	1969-1983
醫學と生物學	82, 83(1-4, 6), 84-99, 100(1-4)	1971-1980
異常行動研究会誌	11-16, 18-22, 24-31, 32(1)	1971-1993
IMAGO	4(7, 13), 5(1), 3(5, 10-11)	1992-1994
Isotope News	358-587+	1984-2003
Japanese Journal of Sports Sciences	1-4, 5(1-7)	1982-1986
実験動物	19-43	1970-1994
実験動物技術	11-37	1976-2002
実験医学	3(1-4, 6)	1985-1985
人類学研究	1-2, 3(1-2), 6, 7(3-4)	1954-1960
人類學輯報	1-6, 8-12, 14, 16, 18-19, 21-25 28-36	1948-1967
人類學雜誌	56(3, 10-11), 57(3, 6-7, 10-11), 58(1, 3, 5, 7-8, 10), 59(2, 7, 9-12), 60(1, 3), 61-99	1941-1991
人類學雜誌 (復刻版)	1-60	1886-1949

雑誌名	所蔵巻号	期間
人類科学	5-8, 11, 14, 18-19, 21, 27, 29-40	1952-1987
季刊人類学	1(4), 12(1), 15(4), 16(1, 3-4)	1970-1985
自主講座	1-6, 8-23, 25-34, 36-66, 71-75, 77-80, 82	1971-1978
情報処理	17(12), 18(1-4, 6-12), 19-21, 22(1-2, 4-7)	1976-1981
条件反射	1-113	1939-1973
助産婦雑誌	39(3-12), 40(2-12), 43(2-3)	1985-1989
助成研究	1-16	1998-2002
助成財団	1, 3-28, 30, 33-35, 37-40	1987-1995
科学	20(5), 34(1), 35(5), 36(4), 37(9), 38(4-12), 39-72+	1950-2002
科学朝日	28(2, 4-6, 8-11), 29-37, 38(1-8, 10-12), 39-55, 56(1-3)	1968-1996
解剖学雑誌	24(2-4), 25-27, 28(3-6), 29, 30(1-5), 31-77	1949-2002
感覚統合障害研究	1(1), 3-4, 5(1)	1988-1994
「環境科学」研究広報	1-5, 10, 12-18, 26-34	1977-1986
「環境科学」研究報告集. B	1, 10, 50, 235, 335	1978-1987
からだの科学	158	1991-1991
からだの科学 増刊	5-6, 21	1987-1989
河口湖カンファランス	8, 10, 17-18, 20	1976-1982
血管医学	2(2-6), 3(1)	2001-2002
血管と内皮	7(2-6), 8-10	1997-2000
基礎心理学研究	1-2, 3(1) 4, 5(2), 9-19	1982-2001
鼓動 (日本心臓財団)	1978	1978-1978
行動科学	32(1), 33-39	1993-2001
公害研究	1(1-3)	1971-1972
こころの科学	30-32, 35, 39, 41-45, 47-48, 51-53, 55-58, 60	1990-1995
MASIS news	4(5-6, 8-11), 5(2-12), 6, 7(1-3, 5-12), 8-12, 13(1-2, 4), 14(3, 6-12), 15(1-5, 8-12), 16(2-5)	1983-1995
ミクروسコピア	2(4), 5(2-4), 6-7, 8(1-2, 4), 9, 10(1-2)	1985-1993
民族学研究 (日本民族学会・日本民族学協会)	12(1-2, 4), 13(4), 14-18, 19(1-2), 20-22, 23(3-4), 24(3-4), 25-26, 27(1-2), 29-33, 35-38	1947-1974
モダンメディシン	17(3), 18(1-7), 19(7, 10)	1988-1990
Molecular Medicine	30-39+	1993-2002
モンキー	1-45	1957-2001
日本不妊学会雑誌	21(1, 3-4), 22(4), 25(4), 29(1-3), 30, 31(1, 3-4), 32(1-2, 4), 33(1-2, 4), 34(1-2, 4)	1976-1989
日本学術会議月報	9(1), 10, 11(2, 11-12), 12(1-7, 10-12), 13-14, 15(4-11), 16(1-2, 5-11), 17, 18(1-5, 7-12), 19(1-4, 6-12), 20, 21(1-5, 7-12), 22(1-4, 6, 8-12), 23(2, 4-7), 24(5-9, 11), 25(1-4, 6), 27(9-12), 28, 29(1-6, 8, 10-12), 30(1-6, 8-9, 11-12), 31(1, 3, 6-12), 32-35	1968-1994
日本平滑筋学会雑誌	12(2-3), 13(1-4)	1976-1977
日本法医学雑誌	25-26, 27(1-3, 6), 28-36, 37(1-3, 5-6), 38-48, 49(1-4)	1971-1995
日本醫事新報	2459, 2461, 2464-2466, 2476-2592	1971-1973
日本医史学雑誌	28(2-4), 29-30, 31(1-3), 32-35	1982-1989
日本内分泌学会雑誌	51(9-12), 52-53, 54(1-8, 10-12), 55-56, 57(1-3, 5-12), 58, 59(1-3, 10-12), 60(1-8), 61(4-12), 62, 63(1-3)	1975-1987
日本音響学会誌	42(4-12), 43-56	1986-2000
日本臨牀	33(6), 37(6), 39(2), 40(2, 5, 7, 12), 41(8), 43(4), 46(5), 48(11)	1975-1990
日本産科婦人科学会雑誌	26(8), 29(5, 8, 11), 30(11), 31(8, 10, 11), 32(10-11), 33(4), 34(1, 3), 35(1, 12), 36(1-8, 11-12), 37(1-11), 38(1-4)	1974-1986

雑誌名	所蔵巻号	期間
日本生気象学会雑誌	16(1-2), 17-18, 19(1, 3), 20(1-2), 21, 22(1-2), 23(1-2), 24(1)	1974-1987
日本生理学雑誌	26(2), 27(2), 28(5, 8), 30(2-7, 9-12), 31-51, 52(1-6, 8-12), 56(6, 8-10)	1964-1995
日本生態学会誌	15-19, 45(2)	1965-1995
日本體質學雑誌	17(4-6), 18-19, 20(1-2, 4-6), 21(1-3, 5-6), 22, 23(1-4, 6), 24(1)	1952-1959
脳波と筋電図	1-6, 7(1-2, 4), 8-12, 13(2-4), 14(2-4), 15(3-4), 16-22, 23(2-4), 24(1)	1972-1996
脳研究	3-6	1949-1950
脳と神経	24-45	1972-1993
ラボラトリーアニマル	1-4, 5(1)	1984-1988
霊長類研究	1-18+	1985-2002
霊長類研究所年報	1-32+	1971-2002
農林省林業試験場年報	45	1970-1970
林業試験場研究報告(農林省林業試験場)	48, 55, 75, 246-305, 307-314, 316-318, 320-321, 323-325, 327-328	1972-1984
林業試験場研究報告, 林業(林業試験場)	331-334, 336-337, 339, 341-344, 346, 348-349, 351, 353-354	1984-1989
林業試験場研究報告, 林業・林産(森林総合研究所)	355	1989-1989
森林総合研究所研究報告(農林水産省林野庁森林総合研究所)	356-373	1989-1997
臨床科学	11(1-6, 10), 13(4), 17(9), 19(6, 11), 20(3, 5, 10-11)	1975-1986
臨床検査	15(1, 3-12), 16-46+	1971-2002
最新医学	26-29, 30(1-11)	1971-1975
産婦人科の世界	23-24, 25(1), 34(8)	1971-1982
産科と婦人科	38(1-3, 5-12), 39(1-11), 40(1)	1971-1973
生物物理	6(1), 10(3, 6), 11-14, 15(1)	1966-1975
生物科学	28-54+	1976-2002
生物科学ニュース	65-112, 114-376+	1977-2003
生理生態	1-17	1947-1976
精神身体医学	14(1, 6), 15(1-2)	1974-1975
生体の科学	21(5-7), 22-25, 26(1-3, 6), 27-41, 42(1, 3-4, 6), 43-48, 49(2-6), 50-53+	1970-2002
神経研究の進歩	10(4), 13(4), 16-19, 21(4), 22(4-6), 24(6), 25(1-2, 5), 26(2, 5-6), 30(5-6), 31(4, 6), 32(3-6)	1966-1988
神経精神薬理	7(1-7, 9-12)	1985-1985
神経心理学	5-16	1989-2000
心理学評論	12(2), 18-19, 20(2-4), 21, 22(1-3), 23(1-3), 23(1-3), 24(1-2, 4), 25-27, 28(1, 3-4), 29(1-3), 31(1-2, 4), 32-38, 39(2-4), 40-43	1969-2000
心理學研究	39-59, 60(1-5), 61-66, 67(1-2, 4-6), 68-71	1968-2000
姿勢研究	1-11	1981-1992
自然	23-38, 39(1-5)	1968-1984
自然史研究	1-2, 3(1)+	1968-2002
綜合臨牀	18(5), 25(9-10), 31(2, 10), 33(11)	1969-1984
数理科学	8(4, 6-7, 12), 9(7), 11(8)	1970-1973
体力科学	33-38, 39(1-5), 40-41, 42(2-5), 43(2-6)	1984-1994
代謝	23-29	1986-1992

雑誌名	所蔵巻号	期間
蛋白質・核酸・酵素	6(11), 7(7, 13), 8(5), 9(4-15), 10(1-6, 8-16), 11-14, 15(1-4, 6-12), 16-34, 35(1-3, 5-13, 15-16), 36(2-15), 37(1-10, 12-13, 15-16), 38(1-2, 4-5, 8-9, 11-14, 16), 39(1-14, 16), 40(1-5, 7-9, 11-17), 41(1-4, 6-7, 9-16), 42(1-15), 43-44	1961-1999
東南アジア研究	1-4; 2-40+	1963-2003
土の声・民の声	84-94	1978-1979
野生生物保護	1(2), 2-7+	1995-2002
在来家畜調査団報告	1-5	1964-1972
在来家畜研究会報告	6-10	1974-1983
全日本鍼灸学会雑誌	34, 35(1)	1984-1985
科学新聞	1679-1685, 1687-1756, 1758-1856, 1858-2942+	1977-2003
地質科学 (中国雑誌)	1973-1975, 1976(1-3), 1977-1990	1973-1990
動物学報 (中国雑誌)	19-21, 22(1-2, 4), 23-40, 41(2-4), 42, 43(1-3)	1973-1997
動物学研究 (中国雑誌)	2, 3(1), 4(1, 3-4), 5(1, 3-4), 6-12, 13(1-3), 14-19, 20(2-5), 21-22, 23(1-3)+	1981-2002
人類学学報 (中国雑誌)	1(1-2), 2-21+	1982-2002
考古学報 (中国雑誌)	1973-1990	1973-1990
古脊椎動物学報 (中国雑誌)	22-40+	1984-2002
古脊椎動物与古人類 (中国雑誌)	11(1-2), 12-13, 14(1-3), 15-16, 17(1), 18-19, 20(1-3), 21(2-4)	1973-1983
植物学報 (中国雑誌)	15(1-2), 16-32	1973-1990

(4) 欧文雑誌リスト

雑誌名	所蔵巻号	期間
Abstracts (Society for Neuroscience)	3-20, 22-26, 27(2)	1977-2001
Abstracts and Reviews in Behavioral Biology	9	1972-1972
Acta Endocrinologica	75-80	1974-1975
Acta Endocrinologica. Supplementum	181-201	1974-1975
Acta Neurobiologiae Experimentalis	30(4), 31-56	1970-1996
Acta Neurobiologiae Experimentalis. Supplementum	1, 3	1971-1973
Acta Physiologica Scandinavica	78-137	1970-1989
Acta Physiologica Scandinavica. Supplementum	332-586	1969-1989
Acta Physiologica Scandinavica. Special Supplementum	1978	1978-1978
Advances in Enzymology and Related Areas of Molecular Biology	40-56	1974-1984
Advances in Protein Chemistry	28-36	1974-1984
African Journal of Ecology	17-40+	1979-2002
African Primates	1-4	1995-2000
American Anthropologist N. S.	70-101, 102(2-4), 103-104+	1968-2002
The American Journal of Anatomy	139-192	1974-1991
The American Journal of Human Biology	9-14+	1997-2002
The American Journal of Human Genetics	20-71+	1968-2002
American Journal of Obstetrics and Gynecology	109(3-8), 110-147	1971-1983
American Journal of Physical Anthropology. N. S.	10-11, 13-14, 17-120+	1952-2002
American Journal of Physical Medicine	50-57	1971-1978
American Journal of Physiology	222-243	1972-1982

雑誌名	所蔵巻号	期間
American Journal of Physiology. Regulatory, Integrative and Comparative Physiology	1-10	1977-1981
American Journal of Primatology	1-58+	1981-2002
The American Naturalist	106-160+	1972-2002
The American Psychologist	7(1, 3-6), 29-51	1952-1996
Analytical Biochemistry	57-135	1974-1983
The Anatomical Record	166-234, 235(1)	1970-1993
Anatomical Science International	77+	2002-2002
Anatomischer Anzeiger	126-173	1970-1991
Animal Behaviour	17-64+	1969-2002
Animal Cognition	1(1), 2-5+	1998-2002
Animal Learning and Behavior	1-29+	1973-2001
Animal Welfare	10-11+	2001-2002
Annals de la Fondation Fyssen	1-4, 7-9, 11-17	1985-2002
Annals of Anatomy	174-177	1992-1995
Annals of the New York Academy of Sciences	115(2), 117(1), 118(12, 21), 134(2), 147(4), 156(2), 157(2), 159(3), 160(1), 162(1), 164(3), 166(3), 167(1), 169(1, 3), 299, 331, 341-342, 344, 346, 370, 374, 425, 453, 473, 500, 512, 537, 560, 600, 620, 862	1964-1998
Annual Review of Biochemistry	1-3, 5-10, 18-19, 21-22, 25-26, 35-71+	1932-2002
Annual Review of Ecology and Systematics	1-31, 33+	1970-2002
Annual Review of Physiology	25-53, 55-56	1963-1994
Annual Review of Psychology	8-10, 16-46, 48-54+	1957-2003
Anthropological Quarterly	41-75+	1968-2002
Anthropologie	72-74, 100-102	1968-1998
Anthropologischer Anzeiger	31-53	1968-1995
Archives Italiennes de Biologie	106-113	1968-1975
Archives Suisses d'Anthropologie Generale	32-34, 37	1967-1973
Australian Journal of Zoology	22-32	1974-1984
Australian Journal of Zoology. Supplementary series	24-103	1974-1984
Behavior Research Methods and Instrumentation	1-15	1969-1983
Behavior Research Methods, Instruments, and Computers	16-34+	1984-2002
Behavioral and Brain Sciences	1-13, 15	1978-1992
Behavioral and Neural Biology	25-62	1979-1994
Behavioral Biology	7-24	1972-1978
Behavioral Ecology and Sociobiology	1-12, 13(1-3), 14-52+	1976-2002
Behavioral Neuroscience	97-116+	1983-2002
Behavioral Science	1-7, 10-22	1956-1977
Behaviour	33-139+	1969-2002
Behavioural Brain Research	2-6, 7(2-3), 8-16, 17(1-2), 18-55	1981-1993
Bibliography of Reproduction	17-26	1971-1975
Biochemical and Biophysical Research Communications	38-125	1970-1984
Biochemical Genetics	16-40+	1978-2002
Biochemical journal	102(3), 111(1-2) 112(2)	1967-1969
Biochemical Journal. Cellular Aspects	186-216	1980-1983
Biochemical Journal. Molecular Aspects	185-215	1980-1983

雑誌名	所蔵巻号	期間
Biochemical Society Transactions	8-11	1980-1983
Biochemistry	13-23	1974-1984
Biochimica et Biophysica Acta	27-36, 49, 51, 53-54, 60	1958-1962
Biochimica et Biophysica Acta. Protein Structure	P30-P68, P70-P76	1974-1981
Biochimica et Biophysica Acta. Protein Structure and Molecular Enzymology	P1-P10	1982-1982
Biochimica et Biophysica Acta. Specialized Section on Nucleic Acids and Related Subjects	55	1962-1962
Biological Conservation	43-102, 103(2-3)	1988-2002
Biology of the Neonate	26-29	1975-1976
BIS (Brain Information Service) Conference Report	19, 36, 38, 42-43, 47	1971-1978
BIS (Brain Information Service) Research Report	3	1974-1974
Blood Vessels	19-28	1982-1991
Brain	84-107, 109-115, 120-125+	1961-2002
Brain and Cognition	30-44	1996-2000
Brain and Language	3-41, 76-83+	1976-2002
Brain, Behavior and Evolution	1-52	1968-1998
Brain, Behavior and Immunity	1-3	1987-1989
Brain Research	1-312, 314-387, 389-501, 503-599	1966-1992
Brain research. Brain Research Reviews	1-4, 5(1-2), 6-17	1979-1992
Brain research. Cognitive brain research	1	1992-1993
Brain research. Developmental Brain Research	1-10, 12-70	1981-1992
Brain research. Molecular Brain Research	1, 3-16	1986-1992
Brain Research Bulletin	3-17, 18(3-6), 19-23	1978-1989
Bulletin de l'Academie Malgache N. S.	44(2), 52(1-2), 53(1-2)	1966-1975
Bulletin of the American Museum of Natural History	72(6), 231	1936-1997
Bulletin of the Psychonomic Society	1-31	1973-1993
Bulletins et Memoires de la Societe d'Anthropologie de Paris. Ser. 12	3-4, 6	1968-1970
The Canadian Journal of Neurological Sciences	4-19	1977-1992
Canadian Journal of Psychology	19-30	1965-1976
Carnivore	2(3-4), 3-7	1980-1984
Cell	52(3-4), 53(2-6), 54-65, 66(1, 3-6), 67-75	1988-1993
Child Development	62-73+	1991-2002
Chinese journal of physiological sciences	1(1-2), 2(1)	1985-1986
Chronolog	15(4-8, 9-12), 16-19, 20(1-2, 5), 21(8-10), 22(1-3, 5-7, 10-11), 23(1, 3-5)	1987-1995
Cladistics	1-17+	1985-2001
Clinical Microbiology Newsletter	4(19-24), 5-6, 7(1-7, 9-24), 8-16, 17(1-15), 18(1-2, 4-24), 19-23, 24(1, 3-4, 6-10, 13-20, 22-24)+	1982-2002
Cognition	38-82, 83(2-3), 84-86+	1991-2003
Cognition and Brain Theory	4	1981-1981
Comunicaciones paleontologicas del Museo de Historia Natural de Montevideo	1	1970-1988
Comunicaciones zoologicas del Museo de Historia Natural de Montevideo	11	1981-1987

雑誌名	所蔵巻号	期間
Communications in Behavioral Biology. Pt. A.	1-6	1968-1971
Communications in Behavioral Biology. Pt. B.	1-8	1968-1971
Comparative Medicine	50-52+	2000-2002
Comptes rendus de l'Académie des sciences. Série II, Sciences de la terre et des planètes	328-333	1999-2001
Comptes rendus. Geoscience	334+	2002-2002
Comptes rendus. Palevol	1	2002-2002
Conditional Reflex	4-6	1969-1971
Conservation Biology	14-15	2000-2001
Cortex	9-11	1973-1975
CSA Neurosciences Abstracts	1	1983-1983
Current Anthropology	1-43+	1960-2002
Current Contents. Behavioral, Social & Management Science	1(1-19, 21, 23-42), 2	1969-1970
Current Contents. Behavioral, Social and Educational Sciences	3-5	1971-1973
Current Contents. Life Sciences	12-15, 16(1-17, 19-52), 19-21, 22(1-2, 4-52), 23-24, 25(1-47, 49-52), 26-33, 34(1-4)	1969-1991
Current Contents. Social & Behavioral Sciences	6(6-52), 7(1-8)	1974-1975
Current Contents on Diskette (Life Science)	34-40	1991-1997
Current Contents on Diskette (Life Science) with Abstracts	37-45+	1994-2002
Current Opinion in Neurobiology	9-12+	1999-2002
Current Primate References	1967(12), 1968-1999	1967-1999
Developmental Dynamics	193-198	1992-1993
Developmental Psychobiology	15-16, 17(1-2, 4, 6), 18-19, 22-33	1982-1998
Developmental Psychology	1-38+	1969-2002
Discussions in Neuroscience	1, 2(1, 3-4), 3(1-2, 4), 4(1-3), 6(1-2), 7(1-3), 9(1, 3-4)	1984-1993
East African Wildlife Journal	15-16	1977-1978
Ecological Monographs	40-72+	1970-2002
Electroencephalography and Clinical Neurophysiology	1-41, 48-85	1949-1992
Electromyography	11	1971-1971
Electromyography and Clinical Neurophysiology	12-18	1972-1978
Endeavour	14(56), 15-16, 24(92), 28(104-105), 29(106), 30, 31(113-114), 32-35	1955-1976
Endeavour. New Series	1	1977-1977
Endocrinology	90-100, 101(1-4, 6), 102-133, 134(1-5), 135-143	1972-2002
Ethology	71-108+	1986-2002
Ethology and Sociobiology	1(1-4), 2(1), 5-17	1979-1996
Evolution	30-56+	1976-2002
Evolution and Human Behavior	18-23+	1997-2002
Evolutionary Anthropology	1(1), 2-5	1992-1996
Excerpta Medica. Sect. 1	22-24	1968-1970
Excerpta Medica. Sect. 10	24, 25(1-10)	1971-1972
Experimental Animals	44-51	1995-2002

雑誌名	所蔵巻号	期間
Experimental Brain Research	1-30, 31(1-2, 4), 32-124	1966-1999
Experimental Neurology	1-118	1959-1992
The FASEB Journal	1-8, 9(1-11, 13-14), 10-16+	1987-2002
Federation Proceedings	29-46	1970-1987
Fertility and Sterility	23-24, 25(1-3, 7-12), 26-38	1972-1982
Folia Primatologica	1-73+	1963-2002
General and Comparative Endocrinology	46-60	1982-1985
Genetics	88-162+	1978-2002
Gorilla	8-24+	1984-2002
Hebdo Canada	9(42-45, 47), 10(1-4, 7-9, 12-47, 49), 11(1-2, 4-47), 12, 13(1-12, 14-24, 26-28)	1981-1985
Hereditas	96-123	1982-1995
Hormones and Behavior	2-16	1971-1982
Human Biology	40-74+	1968-2002
Human Brain Mapping	3	1995-1995
Human Ecology	2-30	1974-2002
Human Evolution	1(1-5), 2-16+	1986-2001
Human Molecular Genetics	1-8	1992-1999
Infant Behavior and Development	19-25+	1996-2002
International Immunology	1, 2(1-10)	1989-1990
International Journal of Andrology	1-12	1978-1989
International Journal of Andrology. Supplement	1-2	1978-1978
International Journal of Anthropology	1	1986-1986
International Journal of Neuroscience	21-35, 38-64, 67-72	1983-1993
International Journal of Osteoarchaeology	1-12+	1991-2002
International Journal of Primatology	1-23+	1980-2002
IPPL Newsletter	[1-5], [10-13], 14-22, 23(1-2), 24-29+	1974-2002
IUCN/SSC Primate Specialist Group Newsletter	1-4	1981-1984
Japanese Journal of Physiology	15, 16(2-6), 17(1-3, 5-6), 18-21, 22(2-6), 23-28, 29(2-4), 30-38	1965-1988
Japanese Psychological Research	10-42	1968-2000
Journal of the Acoustical Society of America	83-88, [89-109]	1988-2001
Journal of the Acoustical Society of Japan (E)	7(3-6), 8-21	1986-2000
Journal of the American Veterinary Medical Association	160-163	1972-1973
The Journal of Animal Ecology	39-71+	1970-2002
Journal of Anthropological Research	29-52	1973-1996
Journal of Applied Physiology	32-41	1972-1976
Journal of Applied Physiology. Respiratory, Environmental and Exercise Physiology	42-49	1977-1980
Journal of Archaeological Science	26-28, 29(1-9, 11-12)+	1999-2002
Journal of Biochemistry	63-128	1968-2000
The Journal of Biological Chemistry	249-277+	1974-2002
Journal of Biomechanics	7-13, 14(1-2)	1974-1981
Journal of the Bombay Natural History Society	58(2-3), 59(1-2)	1961-1962
Journal of Bone and Joint Surgery. American Volume	52-59	1970-1977
Journal of Bone and Joint Surgery. British Volume	52-59	1970-1977
Journal of Child Language	17-29+	1990-2002

雑誌名	所蔵巻号	期間
Journal of Cognitive Neuroscience	11-14+	1999-2002
Journal of Comparative Neurology	138-310, 312(2-4), 313, 315-375	1970-1996
Journal of Comparative and Physiological Psychology	59-96	1965-1982
Journal of Comparative Psychology	97-116+	1983-2002
The Journal of Ecology	58-90+	1970-2002
Journal of Endocrinology	49-67	1971-1975
Journal of Ethology	5-7	1987-1989
Journal of the Experimental Analysis of Behavior	1-67, 68(2-3), 69-70	1958-1998
Journal of Experimental Child Psychology	51-66, 67(2-3), 68-71	1991-1998
Journal of Experimental Psychology	37-39, 40(1-2, 4-6), 41, 42(1-2, 4-6), 43, 45(1-3, 5-6), 46, 47(1-2, 4-6), 48, 57-68, 79-103	1947-1974
Journal of Experimental Psychology: Animal Behavior Processes	1-28+	1975-2002
Journal of Experimental Psychology:General	104-130+	1975-2001
Journal of Experimental Psychology. Human Learning and Memory	1-7	1975-1981
Journal of Experimental Psychology: Human Perception and Performance	1-22, 23(1-5), 24-27, 28(2-6)+	1975-2002
Journal of Experimental Psychology : Learning, Memory, and Cognition	8-15, 16(1, 3-6), 17-28+	1982-2002
The Journal of General Physiology	12-22, 71-100, 103-104	1929-1994
Journal of Human Ergology	1-14, 18(2), 20(1), 21	1972-1992
Journal of Human Evolution	1-43+	1972-2002
Journal of Immunology	136-137, 138(1-4)	1986-1987
Journal of Mammalian Evolution	1-8, 9(1-2)+	1993-2002
Journal of Mammalogy	30(1), 52-81, 82(2-4), 83+	1949-2002
Journal of Medical Primatology	1-31+	1972-2002
Journal of Molecular Evolution	3-55+	1974-2002
Journal of Neurochemistry	22-32, 33(1-2, 4-6), 34-43	1974-1984
Journal of Neurophysiology	29, 31-38, 67-74, 75(1-4, 6), 76-88+	1966-2002
Journal of Neuroscience	12-20, 22+	1992-2002
Journal of Neuroscience Methods	1, 3-9	1979-1983
Journal of Physiology	106-144, 145(1, 3), 146-147, 148(1-2), 149(1, 3), 150-497	1947-1996
Journal of Reproduction and Fertility	32-120	1973-2000
Journal of Speech and Hearing Research	34-35, 36(1, 3-6), 37-38, 39(3-6)	1991-1996
Journal of Speech, Language, and Hearing Research	40-44, 46(1)+	1997-2003
Journal of Theoretical Biology	56-69, 196-213, 214(1-2)	1976-2002
The Journal of the Royal Anthropological Institute	1-8+	1995-2002
Journal of Tropical Ecology	1-15	1985-1999
Journal of Vascular Research	29-39	1992-2002
The Journal of Wildlife Management	33-66+	1969-2002
Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Indonesian Macaque	1	1981-1981
Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian non-human Primates	2-9	1982-1995

雑誌名	所蔵巻号	期間
Laboratory Animal Care	20	1970-1970
Laboratory Animals	1-28, 29(2-4), 30-35, 36(1-3)+	1967-2002
Laboratory Animal Science	21-49	1971-1999
Laboratory Primate Newsletter	4-34, 35(1, 3-4), 36-40, 41(1)+	1965-2002
Learning and Motivation	22-32, 33(1-3)+	1991-2002
Life Sciences. Pt. 1	11, 12(1-9)	1972-1973
Malayan Nature Journal	17, 18(1)	1963-1964
Mammalia	44-62, 63(1-2, 4), 64-66+	1980-2002
Man N. S.	3-29	1968-1994
Memory and Cognition	1-19, 20(1-5), 21-29, 31(1)+	1973-2002
Molecular Biology and Evolution	14(1, 3-12), 15-16	1997-1999
Molecular Ecology	8	1999-1999
Monographs of the Society for Research in Child Development	64-67+	1999-2002
National Geographic	146-202+	1974-2002
Natural History	102(3-12), 103-105, 106(1-2)	1993-1997
Nature	166-180, 185-421+	1950-2003
Nature Genetics	1-11, 12(1-3), 13-33+	1992-2003
Nature Neuroscience	2-5+	1999-2002
Nature. New Biology	229-246	1971-1973
Nature. Physical Science	229-246	1971-1973
Neural Networks	5(1, 3, 4-6), 6(5-8), 7-8, 9(1-2, 4-6), 10-11, 12(1-3), 13(1-10)	1992-2000
Neurobiology of Aging	15-19	1994-1998
Neurobiology of Learning and Memory	63-78+	1995-2002
Neuroendocrinology	7-50	1971-1989
Neuropharmacology	25-31	1986-1992
Neuropsychologia	1-36	1963-1998
Neuroreport	2(1-2, 7-8), 3(1, 7, 9-12), 4(1-3, 5-7, 10-12)	1991-1993
Neuroscience	1-70, 71(1-2)	1976-1996
Neuroscience Abstracts	2	1976-1976
Neuroscience Letters	1(1, 5), 2-140, 142-146, 147(1)	1975-1992
Neuroscience Letters. Supplement	1-29, 33, 39, 42	1978-1992
Neuroscience Research	1-40	1984-2001
Neuroscience Research. Supplement	1-14, 16, 21	1985-1997
Neuroscience Research Communications	1-5, 6(1)	1987-1990
Neuroscience Research Program Bulletin	9-12, 13(1-3), 14(1-2), 15-17	1971-1979
Nucleic Acids Research	19-25, 26(2-24), 27	1991-1999
Oikos	25-83	1974-1998
Oryx	12-13, 14(1-4), 15(1-5), 16(1-3)	1973-1982
Perception	28-31+	1999-2002
Perception and Psychophysics	19-63+	1976-2001
Perceptual and Motor Skills	28-43	1969-1976
Physics Today	41(9-12), 42-44, 45(1-5, 7-12), 46-47, 48(1-10, 12), 49(1-2, 5-12), 50(1-2, 4-1 2), 51, 52(1-5, 7-10, 12), 53, 54(1-8)	1988-2001
Physiological Psychology	1-14	1973-1986

雑誌名	所蔵巻号	期間
Physiological Reviews	50-69, 70(1), 76-82+	1970-2002
Physiological Zoology	45-53	1972-1980
The Physiologist	13-18, 19(1, 4), 20, 22-23, 24(1-4, 6), 26	1970-1983
Physiology and Behavior	1-48, 49(1-3)	1966-1991
Physiology and Ecology Japan	18-31	1981-1995
Primate Conservation	5-9	1985-1992
Primate Eye	30-57, 59-64, 66-72, 76-79+	1986-2003
Primate News	[5-24]	1967-1990
Primate Report	1-13, 15-65+	1981-2003
Primates	1-43+	1957-2002
Proceedings of the Australian Physiological and Pharmacological Society	1(1-2), 2(1), 3(1), 4(2), 5(1-2), 6-12, 13(1), 14(2)	1970-1983
Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America	14-15, 65-67, 71-79, 80(1-13, 15-24), 81-99+	1928-2002
Proceedings of the Royal Society of London. Ser. B, Biological Sciences	175(1039-1041), 176(1042)	1970-1970
Prostaglandins	1-13	1972-1977
Psychobiology	15-26	1987-1998
Psychological Abstracts	39-62, 64-68, 69(4-6), 70	1965-1983
Psychological Bulletin	38(2-3, 5-8), 40-86, 87(1-3), 88-127, 128(1)+	1941-2002
Psychological Review	17(1-2), 54, 56(1, 3-6), 57-59, 60(1-2, 4-6), 62-63, 64(3-6), 65-108, 109(1)+	1910-2002
Psychonomic Bulletin and Review	1-8+	1994-2001
Psychonomic Science	1-11, 12(1-4), 13(4-6), 14-29	1964-1972
Publications of the FELS Research Institute for the Study of Human Development	1964-1968	1964-1968
The Quarterly Journal of Experimental Psychology Section A	43-54	1991-2001
The Quarterly Journal of Experimental Psychology Section B	43-54	1991-2001
Recent Literature of Mammalogy	55-66	1974-1985
Reproduction	121-124+	2001-2002
Researches on Population Ecology	8-9	1966-1967
The Sarawak Museum Journal. New series	6-10, 11(19-20), 12, 14-33	1954-1984
Science N. S.	151-299+	1966-2003
Scientific American N.S.	126-151, 217(4-6), 218, 219(1-3, 6), 220-286, 287(1-5), 288(1-4)+	1921-2003
The Scientific Reports of the Whales Research Institute	1-5, 10, 16-38	1948-1987
The Scientist	2-3, 4(1, 14)	1988-1990
The SISTM Quarterly Incorporating the Brain Theory Newsletter	2(2-4)	1978-1979
Smithsonian Contributions to the Earth Sciences	24-26	1982-1984
Smithsonian Contributions to Paleobiology	41-42, 45-54, 56	1982-1984
Smithsonian Contributions to Zoology	294, 306, 310, 314-315, 318-319, 322, 325-326, 328-329, 331-342, 344-348, 350-391, 393-402, 405-406, 408	1980-1985
Southwestern Journal of Anthropology	24-28	1968-1972

雑誌名	所蔵巻号	期間
Soviet Anthropology and Archeology	6(4), 7-18	1967-1979
Soviet Psychology	6(3-4), 7-8, 9(1-2)	1968-1971
Species	25-29	1995-1997
Symposia of the Zoological Society of London	1-4, 8, 10, 13-15, 17-18, 21, 23-24, 26, 33, 46, 48-49, 51, 60	1960-1988
Systematic Biology	41-51+	1992-2002
Systematic Zoology	25-40	1976-1991
La Terre et la vie	30-36, 37(1-2), 38(1-2), 39-54, 55(1-2)	1976-2000
Transactions and Proceedings of the Palaeontological Society of Japan. New series	127, 129-153	1982-1989
Trends in Cognitive Sciences	2(5-12), 3	1998-1999
Trends in Neurosciences	1-3, 4(1-6, 8-12), 5(1-11), 6(1-7, 9-12), 7(1-10, 12), 8-10, 11(1-3, 5-9, 11-12), 12(1-7, 9-12), 13(2, 4-6, 8-12), 14(3)	1978-1991
Tropical Biodiversity	1(1-2)	1992-1993
Vision Research	1-39	1961-1999
Wildlife Monographs	19-150+	1970-2002
Wildlife Society Bulletin	1-3, 23-30+	1973-2002
Yearbook of Physical Anthropology	3-8, 10-11, 13-15, 18-45+	1947-2002
Zeitschrift fur Morphologie und Anthropologie	59(3), 60-83	1967-2002
Zeitschrift fur Säugetierkunde	1-3, 4(1-2, 4-6), 5-7	1926-1932
Zeitschrift fur Tierpsychologie	1, 52-70	1937-1985
Zeitschrift fur Versuchstierkunde	14-20	1972-1978
Zoo Biology	20, 22(1)+	2001-2003
Zoological Science	1-19	1984-2002
Нейрофизиология	2-4, 5(2-6), 6-7	1970-1975

(5) 継続図書リスト

書名	所蔵巻号	期間	請求記号
Advances in Child Development and Behavior	1-30+	1963-2002	159.92 A
Advances in the Study of Behavior	1-31+	1965-2002	159.929+591.5 A
Evolutionary Biology	1-33+	1967-2003	574/578 E
Modern Quaternary Research in Southeast Asia	1-16+	1975-2000	551.79(59) M
Nebraska Symposium on Motivation	16-48+	1968-2002	159.94 N
The Psychology of Learning and Motivation	1-41+	1967-2002	159.94+159.95 P

(6) 霊長類研究所図書室利用規定

I. 開室時間と休室

1. 開室時間

平日：9時から17時まで。

2. 休室

土曜日、日曜日、国民の祝祭日、年末・年始は休室とする。

その他の臨時休室は、その都度掲示する。

II. 閲覧

1. 閲覧者の資格

- 1) 本研究所の所員。
- 2) 本研究所の共同利用研究員で、閲覧者カードを提出する者。
- 3) 1)、2) 以外の、京都大学に所属する者で、所属図書施設の紹介のある者。
- 4) 本研究所教職員の紹介のある者。

2. 閲覧

- 1) 閲覧者は図書室内で図書（単行本、雑誌、その他の資料）を自由に閲覧できる。
- 2) 閲覧後の図書は必ずもとの場所にもどす。

III. 貸出および返却

1. IIの1の1)及び2)の該当者は、下記に従い図書を借用できる。すべての借用資料は、原則として所外に持ち出すことはできない。

1) 借用資料の種類と借用方法

a. 単行本

- (1) 単行本は1カ月間借用できる。
- (2) 借用時には、ブックカードおよび代本版用紙に必要事項を記入する。ブックカードは所定の箱に入れ、代本版用紙は代本版の背に挿入して、書架上の本のあった位置に置く。

b. 製本雑誌

- (1) 製本雑誌は3日間借用できる。
- (2) 借用方法は単行本に準じる。

c. 未製本雑誌

- (1) 未製本の雑誌は15時から翌朝10時までの間に限り借用できる。
- (2) 借用時には貸出カードに必要事項を記入する。

d. 別刷

(1) 別刷は開室時間中に図書室内でのみ利用できる。

(2) 利用後は、返却台の箱に返却する。

e. 他機関からの借用資料

(1) 他機関からの借用資料は、開室時間中の図書室内での利用に限る。

(2) 利用後は図書係員に返却する。

2) 参考図書その他禁帯出扱いの図書は貸出さない。

3) 借用中の資料を転貸してはならない。

4) 再手続きをすることにより貸出期限の延長ができる。ただし、他に借用希望者がある時は、そちらを優先する。

5) 借用後の図書は返却台に返却する。

2. IIの1の3)の該当者は、所属の図書施設を通じて借用を依頼することができる。借用資料は単行本のみで、所属図書施設内での利用に限る。

借用期限は2週間とするが、本研究所所員からの要請があった場合には、借用期限内であっても、速やかに返却することとする。

IV. 総点検および長期貸出

1. 毎年1回図書の総点検を行う。この時は、貸出期限内外を問わず、すべての図書を返却する。
2. 総点検期間中、原則として図書室は休室とする。
3. 図書委員会により研究室等への備え付けが認められた時は、長期貸出扱いとする。長期貸出期間は1年で、長期貸出扱いの更新は総点検時に行う。

V. その他

1. 資料を紛失したり汚損した場合は、代本または相当の代金で補わなければならない。
2. 借用資料を期日までに返却しなかった場合、以後の貸出を一定期間停止されることがある。
3. 書庫および閲覧室内は禁煙とする。

(昭和51年制定、平成10年7月8日一部改正)

4. サル類飼育頭数・動態

2002年(平成14年)度末飼育頭数

種名	頭数	種名	頭数
オオガラゴ	1	タイワンザル	10
コモンマーモセット	25	ブタオザル	1
ワタボウシタマリン	26	ベニガオザル	1
ヨザル	15	ボンネットザル	10
リスザル	5	カニクイザル	52
フサオマキザル	19	スラウエシマカク	1
ケナガクモザル	1	マントヒヒ	7
ミドリザル	3	シロテテナガザル	1
ミドリザル×パタスザル	1	アジルテナガザル	4
ニホンザル	359	チンパンジー	13
アカゲザル	203	合計	758

2002年(平成14年)度サル類動態表

区分 種名	増加		減少(死亡など)						
	出産	導入	実験殺	事故死	外傷死	呼吸器系疾患	消化器系疾患	その他	剖検不能等
コモンマーモセット	1		1					1	
ワタボウシタマリン	2						2	1	
ヨザル	1								
ニホンザル	39		21		3	11	8	3	12
アカゲザル	32		24	1	2		2	3	2
タイワンザル	1								1
カニクイザル	4	8	4			2			
ミドリザル							1		
ブタオザル			1						
小計	80	8	51	1	5	13	13	8	15
合計	88		106						

注) (減少頭数) - (増加頭数) = 差引頭数
 106 - 88 = 18 (減少)

5. 資料

霊長類研究所が所蔵する資料は、骨格標本、液浸標本、化石模型などからなり、外部の研究者にも基本的にすべて公開されている。標本の多くはデータベース化されており、資料委員会の許可にもとづいて利用希望者に提供され、研究遂行上の必要に応じて貸し出しもおこなっている。他機関所蔵の資料との交換も受け入れている。

(1) 霊長類骨格資料(表 1)

現在、資料委員会のデータベースに登録された霊長類骨格標本は表 1 の通りである。その数は 7,000 点を超え、大部分はマカク類を中心とした旧世界ザルの標本である。マカク類のなかでも特にニホンザルの標本は、質・量ともに他の追随を許さないものである。その他に、新世界ザルの標本も約 1,400 点保有している。類人猿、および原猿類(+ツパイ)の標本は、それぞれ数十点ずつである。

(2) 霊長類以外の骨格標本(表 2)

霊長類以外にも、哺乳類を中心に約 1,400 点近い骨格標本を所蔵している。内訳は、タヌキ、キツネ、ツキノワグマ、テン、イタチ、イノシシ、シカ、カモシカなど日本産哺乳類が多い。日本産の野生哺乳類が減っている現在、これらは貴重な資料である。

骨格標本はすべて研究所新棟 4 階と本棟地下の骨格資料室において移動式標本架にならべて保管されている。標本は種ごとに分類され、種内では標本番号にしたがって配列されている。利用希望者は、資料室に設置されたコンピューター上で骨格標本データベースを検索することができる。データベース上で利用できる情報は、標本番号、種番号、属名、種名、登録日、性別、体重、座高、前胴長などである。

(3) 液浸標本

本棟地下の液浸資料室に各種霊長類のホルマリンもしくはアルコールで固定された液浸標本が数百点保管されており、共同利用研究者などを対象に、研究・教育目的で提供されている。これらについてもデータベース化が進められている。

(4) その他

以上の他に、被毛標本数十点が保有されている。

資料委員会は国内外の多くの研究者がこれらの資料を利用して研究を進めることを希望しており、利用希望者の要請にできるだけ応えたいと考えている。そのため、上記のように研究所の資料についてデータベース化など利用環境の整備に努めており、毎年国内外の研究者らによって骨格標本や液浸標本が研究・教育用の資料として活用されている。標本の利用許可については、非破壊的な使用目的の場合は簡便な手続きで済むようにしているが、標本の破壊が必要だったり破損の恐れのある利用の際は資料委員会への十分な事前説明が必要である。

資料委員会は新しい標本の作製、受け入れもおこなっており、毎年標本数は増加している。資料を一層充実させるため、野外調査などの際に、霊長類その他の標本の採集にご協力いただきたい。

備考：資料委員会では、霊長類研究所資料室で登録・保管する他、データのみ登録も受け付けています。あるいは、標本管理者の移籍・退職などによって、管理困難となった標本の取り扱いについても相談を受けます。霊長類研究所資料委員会(委員長 高井正成)までご連絡ください。

(文責：國松豊)

2002年度（平成14年度）所蔵骨格資料

表1 霊長類骨格資料

和名	学名	標本数
類人猿	Hominoidea	78
テナガザル属	<i>Hylobates</i> spp.	52
チンパンジー属	<i>Pan troglodytes</i>	23
ゴリラ属	<i>Gorilla gorilla</i>	2
オランウータン属	<i>Pongo pygmaeus</i>	1
旧世界ザル	Cercopithecoidea	5614
マカク属	<i>Macaca</i> spp.	3931
ラングール属	<i>Presbytis</i> spp.	176
コロボス属	<i>Colobus</i> spp.	362
コバナテングザル属	<i>Simias concolor</i>	132
グエノン属	<i>Cercopithecus</i> spp.	565
パタス属	<i>Erythrocebus patas</i>	16
マンガベイ属	<i>Cercocebus</i> spp.	16
ヒヒ属	<i>Papio</i> spp.	399
マンドリル属	<i>Mandrillus</i> spp.	17
新世界ザル	Ceboidea	1423
リスザル属	<i>Saimiri sciureus</i>	985
ヨザル属	<i>Aotus trivirgatus</i>	57
ティティ属	<i>Callicebus</i> spp.	49
ホエザル属	<i>Alouatta</i> spp.	49
クモザル属	<i>Ateles</i> spp.	8
ウーリークモザル属	<i>Brachyteles</i> spp.	3
ウーリーモンキー属	<i>Lagothrix</i> spp.	16
オマキザル属	<i>Cebus</i> spp.	84
サキ属	<i>Pithecia</i> spp.	13
ウアカリ属	<i>Cacajao calvus</i>	1
ゲルディモンキー属	<i>Callimico goeldi</i>	1
ピグミーマーモセット属	<i>Cebuella pygmaeus</i>	6
マーモセット属	<i>Callithrix</i> spp.	59
タマリン属	<i>Saguinus</i> spp.	86
ライオンタマリン属	<i>Leontopithecus rosalia</i>	6
原猿類(含ツパイ)	Prosimii & Tupaia	61
	総計	7176

表2 その他の骨格資料

和名	学名	標本数
食肉目	Carnivora	911
イヌ科	Canidae	552
ネコ科	Felidae	23
クマ科	Ursidae	132
アライグマ科	Procyonidae	4
イタチ科	Mustelidae	180
ジャコウネコ科	Viverridae	20
奇蹄目	Perissodactyla	8
ウマ科	Equidae	6
バク科	Tapiridae	2
偶蹄目	Artiodactyla	346
ウシ科	Bovidae	50
シカ科	Cervidae	35
イノシシ科	Suidae	257
ペッカリー科	Tayassuidae	3
不明	indet.	1
齧歯目	Rodentia	66
ネズミ科	Muridae	20
リス科	Sciuridae	33
テンジクネズミ科	Caviidae	3
ヌートリア科	Myocastoridae	1
ヤマアラシ科	Hystricidae	1
オマキヤマアラシ科	Erethizontidae	1
カピバラ科	Hydrochoeridae	1
バカ科	Agoutidae	2
不明	indet.	4
ウサギ目	Lagomorpha	10
ウサギ科	Leporidae	9
ナキウサギ科	Ochotonidae	1
食虫目	Insectivora	1
モグラ科	Talpidae	1
有袋目	Marsupialia	5
オポッサム科	Didelphidae	2
ウオンバット科	Vombatidae	1
カンガルー科	Macropodidae	1
クスクス科	Phalangeridae	1
貧歯目	Edentata	2
フタユビナマケモノ科	Megalonychidae	2
長鼻目	Proboscidea	1
クジラ目	Cetacea	9
マイルカ科	Delphinidae	9
鰭脚目	Pinnipedia	14
アシカ科	Otariidae	14
	哺乳類・計	1373
	爬虫類	4
	魚類	1
	総計	1378

6. 人事異動

所 属	職 名	異 動		内 容	備 考	
		氏 名	年 月 日			
(採用等)	認知学習 センター	助手	泉 明宏	2002/4/16	採用 契約	外国人研究員
		客員教授	Srikantha Sachithanatham	2002/6/1		
	器官調節	助教授	大石 高生	2002/7/1	転任	(独)産業技術総合研究所より
(退職等)	センター 認知学習	客員助教授	Kawin Kanya	2002/4/30	契約期間満了 辞職	外国人研究員 慶応義塾大学文学部教授へ
		教授	小嶋 祥三	2003/3/31		

7. 海外渡航

所 属	官 職	氏 名	種別	期 間	目 的 国	目 的
系統発生	助手	高井 正成	研修	2002/4/10 ~4/15	アメリカ合衆国	アメリカ形質人類学会出席及び 発表
遺伝子情報	教授	竹中 修	出張	2002/4/18 ~4/27	タイ王国, インドネシア共和国	研究連絡
系統発生	助手	本郷 一美	出張	2002/5/20 ~6/29	トルコ共和国, ドイツ連邦共和国	新石器時代の遺跡出土資料の収 集・分析・発掘調査報告会出席ほ か
野外施設	助教授	渡邊 邦夫	出張	2002/5/25 ~6/8	インドネシア共和国	スラウェシマカク調査ほか
遺伝子情報	教授	竹中 修	出張	2002/5/26 ~6/1	インドネシア共和国	研究連絡
生態機構	助教授	M. A. Huffman	研修	2002/5/27 ~7/7	アメリカ合衆国, タンザニア連合共和国, イタリア共和国, 連合王国	アメリカ霊長類学会大会参加 (招 待講演), 野生チンパンジー野外 調査, ピサ大学・研究連絡, イギ リス栄養学会大会参加 (招待講演)
集団遺伝	助手	田中 洋之	出張	2002/6/6 ~6/9	インドネシア共和国	アジルテナガザル亜種文化研究に 関わる共同研究打ち合わせ
センター	助教授	平井 啓久	出張	2002/6/6 ~6/9	インドネシア共和国	アジルテナガザル亜種文化研究に 関わる共同研究打ち合わせ
集団遺伝	助教授	川本 芳	出張	2002/6/16 ~7/4	ペルー共和国	ラクダ科家畜の調査
思考言語	教授	松沢 哲郎	出張	2002/6/17 ~6/24	アメリカ合衆国	チンパンジー会議 I に出席・発表 ほか
系統発生	助手	高井 正成	出張	2002/6/23 ~6/30	ミャンマー連邦共和国	霊長類化石のクリーニング・観 察・計測等
集団遺伝	助手	田中 洋之	研修	2002/7/9 ~7/24	フィリピン共和国	ネコの外部形態観察ならびにハナ バチの生物学的研究のための標本 採集
思考言語	教授	松沢 哲郎	研修	2002/7/9 ~7/13	シンガポール共和国	国際応用心理学会出席及び講演
野外施設	助教授	渡邊 邦夫	研修	2002/7/11 ~8/9	中華人民共和国	金絲猴の生態調査及び国際霊長類 学会参加
形態進化	教授	片山 一道	出張	2002/7/21 ~8/3	マレーシア	現地調査ほか

所 属	官 職	氏 名	種別	期 間	目 的 国	目 的
社会構造	教授	森 明雄	出張	2002/7/24 ~8/30	サウジアラビア王国	マントヒヒの生態調査
集団遺伝	助教授	川本 芳	出張	2002/7/28 ~8/3	インドネシア共和国	国際シンポジウム出席・発表
遺伝子情報	教授	竹中 修	出張	2002/7/28 ~8/2	インドネシア共和国	シンポジウム出席・研究連絡
集団遺伝	助手	田中 洋之	出張	2002/8/1 ~8/21	インドネシア共和国	テナガザルのペットの 血液採取ほか
センター	助教授	平井 啓久	出張	2002/8/1 ~8/21	インドネシア共和国	テナガザルのペットの 血液採取ほか
行動発現	教授	三上 章允	出張	2002/8/1 ~8/12	中華人民共和国	第 19 回国際霊長類学会大会出席・ 研究成果発表ほか
センター	助教授	上野 吉一	出張	2002/8/4 ~8/21	マレーシア, タイ王国	視察・研究打ち合わせ
器官調節	助手	清水 慶子	出張	2002/8/4 ~8/11	中華人民共和国	第 19 回国際霊長類学会大会出席・ 研究成果発表
系統発生	助手	高井 正成	出張	2002/8/4 ~8/18	中華人民共和国	第 19 回国際霊長類学会大会出席・ 研究成果発表
遺伝子情報	教授	竹中 修	研修	2002/8/4 ~8/14	中華人民共和国	第 19 回国際霊長類学会大会出席・ 資料収集
思考言語	助手	田中 正之	出張	2002/8/4 ~8/10	中華人民共和国	第 19 回国際霊長類学会大会出席・ 研究成果発表
思考言語	助教授	友永 雅己	出張	2002/8/4 ~8/10	中華人民共和国	第 19 回国際霊長類学会大会出席・ 研究成果発表
遺伝子情報	助手	中村 伸	出張	2002/8/4 ~8/8	中華人民共和国	第 19 回国際霊長類学会大会出席・ 研究成果発表
思考言語	教授	松沢 哲郎	出張	2002/8/4 ~8/10	中華人民共和国	第 19 回国際霊長類学会大会出席・ 研究成果発表
系統発生	助手	本郷 一美	出張	2002/8/8 ~9/21	トルコ共和国, 連合王国, ヨルダンハシミテ王国	国際考古動物学会出席・遺跡の発 掘ほか
センター	技官	熊崎 清則	出張	2002/8/14 ~8/16	大韓民国, 中華人民共和国	チンパンジー飼育施設点検と 改善指導
形態進化	教授	片山 一道	出張	2002/8/19 ~8/28	マーシャル諸島共和国	遺骨受領ほか
行動発現	教授	三上 章允	出張	2002/8/20 ~8/31	インドネシア共和国	色盲ザル捕獲調査
遺伝子情報	助手	中村 伸	研修	2002/8/21 ~8/25	フィリピン共和国	サル B ウイルスの遺伝子ワクチン に関する研究打合せ
思考言語	教授	松沢 哲郎	出張	2002/8/23 ~8/28	アメリカ合衆国	アメリカ心理学会に出席・発表・ コロキウムにて講演
センター	助教授	上野 吉一	出張	2002/8/25 ~8/30	シンガポール共和国	視察・研究打ち合わせ
センター	助手	後藤 俊二	出張	2002/8/25 ~8/31	インドネシア共和国	色盲ザル捕獲調査
遺伝子情報	教授	竹中 修	出張	2002/8/25 ~8/31	インドネシア共和国	色盲ザル捕獲調査
形態進化	助教授	濱田 穰	出張	2002/9/3 ~10/2	ケニア共和国	フィールド調査
思考言語	教授	松沢 哲郎	出張	2002/9/7 ~10/2	ギニア共和国, コートジボワール共和国	西アフリカにおける野生チンパン ジー保護に関する国際シンポ出 席・ニンバ山調査
形態進化	助手	國松 豊	出張	2002/9/13 ~11/4	ケニア共和国, ウガンダ共和国, タイ王国	中新世アフリカ霊長類化石に関す る調査・標本調査・類人猿化石に 関する打ち合わせ

所 属	官 職	氏 名	種別	期 間	目 的 国	目 的
集団遺伝	助手	田中 洋之	出張	2002/9/14 ～9/29	インドネシア共和国, マレーシア	試料採集ほか
集団遺伝	教授	庄武 孝義	出張	2002/9/16 ～11/7	サウジアラビア王国, エチオピア連邦共和国	マントヒヒの集団遺伝学的研究の ため各所で捕獲調査・グラダヒヒ の群の個体数調査 視察・研究打ち合わせ
センター	助教授	上野 吉一	出張	2002/9/27 ～9/30	シンガポール共和国	視察・技術研修
センター	技官	熊崎 清則	出張	2002/9/27 ～9/30	シンガポール共和国	視察・技術研修
行動発現	教授	三上 章允	出張	2002/9/28 ～10/2	大韓民国	第3回 FAONS 学会出席・発表並び に脳の発達に関する研究連絡
行動発現	助教授	中村 克樹	研修	2002/9/28 ～10/1	大韓民国	第3回 FAONS 学会参加・発表及び 研究連絡
形態進化	教授	片山 一道	出張	2002/10/7 ～10/31	トンガ王国, フィジー共和国	先史人類学関係の現地調査・古人 骨資料の調査
系統発生	助手	高井 正成	出張	2002/10/8 ～10/13	アメリカ合衆国	古脊椎動物学会出席・発表
思考言語	教授	松沢 哲郎	出張	2002/10/10 ～10/14	アメリカ合衆国	チンパンジー研究の現状調査
野外施設	助教授	渡邊 邦夫	出張	2002/10/13 ～11/13	インドネシア共和国	スラウェシマカク雑種群の 継続調査ほか
生態機構	教授	上原 重男	出張	2002/10/21 ～12/9	タンザニア連合共和国	チンパンジーの生態調査
系統発生	教授	茂原 信生	出張	2002/10/23 ～10/29	ベトナム社会主義共和国	現世資料収集
系統発生	助手	本郷 一美	出張	2002/10/23 ～10/29	ベトナム社会主義共和国	現世資料収集
系統発生	助教授	相見 満	出張	2002/10/26 ～11/24	アメリカ合衆国	霊長類の形態学的研究
系統発生	教授	茂原 信生	出張	2002/10/31 ～11/13	ミャンマー連邦共和国	ポンダウン化石発掘調査
系統発生	助手	高井 正成	出張	2002/10/31 ～12/1	ミャンマー連邦共和国	ポンダウン化石発掘調査
行動発現	教授	三上 章允	出張	2002/11/1 ～11/8	アメリカ合衆国	第32回北米神経学会に出席・チン パンジー脳形態に関する研究連絡
行動発現	助教授	中村 克樹	研修	2002/11/1 ～11/9	アメリカ合衆国	第32回北米神経科学学会参加・発 表並びに研究連絡
系統発生	助手	本郷 一美	出張	2002/11/7 ～11/22	トルコ共和国	シンポジウム出席・研究連絡
社会構造	助手	杉浦 秀樹	出張	2002/11/16 ～2003/2/4	サウジアラビア王国	現地調査
認知学習	助教授	正高 信男	出張	2002/11/29 ～12/7	シンガポール共和国, インドネシア共和国	研究連絡・調査
形態進化	助手	國松 豊	出張	2002/12/8 ～12/30	タイ王国	化石発掘調査
系統発生	教授	茂原 信生	研修	2002/12/12 ～12/14	大韓民国	釜山慶南考古学研究所で、 資料調査並びに研究打合せ
思考言語	教授	松沢 哲郎	出張	2002/12/12 ～ 2003/1/12	ギニア共和国, コートジボワール共和国, ドイツ連邦共和国	野生チンパンジーの道具使用なら びに文化の研究
形態進化	助教授	濱田 穰	出張	2002/12/13 ～12/21	ルワンダ共和国	ゴリラ・チンパンジーの生態資料 の調査
遺伝子情報	助手	中村 伸	研修	2002/12/13 ～12/21	フィリピン共和国	サルBウイルス・遺伝子ワクチン に関する共同研究

所 属	官 職	氏 名	種別	期 間	目 的 国	目 的
社会構造	助教授	大澤 秀行	出張	2002/12/15 ～ 2003/1/31	フランス共和国, カメルーン共和国, チャド共和国	植物資料収集・草原性霊長類の 採食生態野外研究など
野外施設	助教授	渡邊 邦夫	出張	2002/12/26 ～ 2003/12/31	中華人民共和国	金絲候に関する資料収集及び 研究連絡
生態機構	助教授	M. A. Huffman	出張	2002/12/23 ～2003/1/1	台湾	研究連絡・野猿調査
集団遺伝	助手	田中 洋之	出張	2003/1/1 ～1/18	インドネシア共和国	調査及び試料収集
野外施設	助教授	渡邊 邦夫	出張	2003/1/19 ～3/9	ベトナム社会主義共和国, インドネシア共和国	ベトナム霊長類野外調査・西スマ トラ州霊長類保全調査ほか
生態機構	助教授	M. A. Huffman	出張	2003/1/26 ～2/27	タンザニア連合共和国	野外調査
形態進化	助手	國松 豊	出張	2003/2/2 ～2/23	タイ王国, ベトナム社会主義共和国	国際シンポジウム参加・霊長類化 石標本調査
集団遺伝	助手	田中 洋之	出張	2003/2/14 ～3/4	インドネシア共和国	試料の処理・精製並びに研究遂行 の打ち合わせほか
センター	助教授	平井 啓久	出張	2003/2/14 ～3/4	インドネシア共和国	試料の処理・精製並びに研究遂行 の打ち合わせほか
形態進化	教授	片山 一道	出張	2003/2/16 ～3/4	チリ共和国, 仏領ポリネシア	イースター島人骨資料調査ほか
行動発現	教授	三上 章允	出張	2003/2/18 ～2/26	インドネシア共和国	色盲ザルの行動学的研究及び 研究打ち合わせ
遺伝子情報	助手	中村 伸	研修	2003/3/5 ～3/9	フィリピン共和国	サルモデルでの高脂血症研究に 関する打合せ
集団遺伝	助手	田中 洋之	出張	2003/3/11 ～3/19	マダガスカル共和国	共同研究打ち合わせ
センター	助教授	平井 啓久	出張	2003/3/11 ～3/19	マダガスカル共和国	共同研究打ち合わせ
生態機構	助教授	M. A. Huffman	出張	2003/3/22 ～3/30	カナダ	研究連絡・研究結果発表
形態進化	助教授	濱田 稔	出張	2003/3/23 ～4/2	タイ王国	アカゲザル・カニクイザルのフィ ールド調査ほか

8. 非常勤講師

(霊)渡辺 茂 (慶應義塾大学文学部 教授)
「霊長類以外の動物における高次認知」
2002年11月21日(木)～11月22日(金)

(理)嶋田正和 (東京大学大学院総合文化研究科 助教授)
「生物集団のダイナミクスと進化」
2002年10月1日(火)～10月2日(水)

(理)河田雅圭 (東北大学大学院生命科学研究科 教授)
「進化生物学：生物多様性の進化」
2002年10月28日(月)～10月29日(火)

(理)神庭重信 (山梨医科大学医学部 教授)
「情動の精神生物学」
2003年3月18日(火)～3月19日(水)

(霊)：霊長類研究所 枠 (理)：理学研究科 枠

9. リサーチ・アシスタント (R・A)

(氏名：採用期間)
打越万喜子：2002年4月1日～2003年3月31日
大橋 岳：2002年4月1日～2003年3月31日
柏原 将：2002年4月1日～2003年3月31日
猿渡 正則：2002年4月1日～2003年3月31日
長岡 朋人：2002年4月1日～2002年9月30日
福原 亮史：2002年4月1日～2003年3月31日
藤田 志歩：2002年4月1日～2003年3月31日
細川 貴之：2002年4月1日～2003年3月31日
森 琢磨：2002年4月1日～2003年3月31日
海野 俊平：2002年10月1日～2003年3月31日

10. ティーチング・アシスタント (T・A)

(氏名：採用期間)

霊長類学系科目に係るもの

倉岡 康治：2002年4月1日～2003年3月31日

香田 啓貴：2002年4月1日～2003年3月31日

郷 康広：2002年4月1日～2003年3月31日

西村 剛：2002年4月1日～2003年3月31日

全学共通科目に係るもの

下岡ゆき子：2002年7月1日～2002年9月30日

中島 野恵：2002年7月1日～2002年9月30日

託見 健：2002年7月1日～2002年9月30日

高橋 知子：2002年7月1日～2002年9月30日

西村 宏久：2002年7月1日～2002年9月30日

親川千紗子：2002年7月1日～2002年9月30日

檜垣小百合：2002年7月1日～2002年9月30日

山田 彩：2002年7月1日～2002年8月31日

深谷 もえ：2002年7月1日～2002年8月31日

氏名：土田順子
受入教官：林 基治
研修題目：霊長類の加齢に伴う神経解剖学的変化
受入期間：2002年4月1日～2002年9月30日

氏名：江木直子
受入教官：茂原信生
研修題目：初期真猿類の行動生態の推定
受入期間：2002年5月9日～2002年10月31日

氏名：片井 聡
受入教官：三上章允
研修題目：霊長類の高次脳機能解析
受入期間：2002年10月1日～2003年3月31日

氏名：鏑本武久
受入教官：茂原信生
研修題目：東アジアにおける哺乳類の進化
受入期間：2002年10月1日～2002年10月31日

受託研究員

氏名：佐藤 崇
受入教官：中村 伸
研修題目：サルモデルでのアレルギー・免疫応答に関する研究
受入期間：2002年10月1日～2003年9月30日

非常勤研究員

(氏名：採用期間)
上野 寛子：2002年4月1日～2002年9月30日
鏑本 武久：2002年4月1日～2002年9月30日
茶谷 薫：2002年4月1日～2002年9月30日
川合南海子：2002年10月1日～2003年3月31日
土田 順子：2002年10月1日～2002年10月31日
半谷 吾郎：2002年10月1日～2003年3月31日
井上 雅仁：2002年11月1日～2003年3月31日
江木 直子：2002年11月1日～2003年3月31日
山越 政子：2002年11月16日～2003年3月31日

6. 研究支援推進員

(氏名：採用期間)
梅田せつ子：2002年4月1日～2003年3月31日
高木かおり：2002年4月1日～2003年3月31日
片岡 敦子：2002年4月1日～2003年3月31日
加藤みどり：2002年4月1日～2003年3月31日
中野千枝子：2002年4月1日～2003年3月31日
葉栗 和枝：2002年4月1日～2003年3月31日
福富 憲司：2002年4月1日～2003年3月31日
宮田 志保：2002年6月1日～2003年3月31日
岡田 真紀：2002年11月1日～2003年3月31日
川本 咲江：2002年11月1日～2003年3月31日
佐藤 慎祐：2002年11月1日～2003年3月31日
塚原由紀子：2002年11月1日～2003年3月31日
吹浦 吉孝：2002年11月1日～2003年3月31日

7. 研究集会

所内談話会

第1回：2002年5月27日（月）
Dr. J. S. Lund (Dept. of Ophthalmology, Univ. of Utah, USA)
“Anatomical cortical columns in macaque primary visual cortex”

第2回：2002年10月4日（金）
Prof. Jaume Bertranpetit (Universitat Pompeu Fabra, Barcelona, Spain) “Population and comparative genetics of functional CAG tandem repeats”

第3回：2002年11月20日（水）
Prof. Martin Pickford (College de France, Paris, France)
“ORRORIN-The 6 million year old Millennium Ancestor”

第4回：2002年12月4日（水）
Dr. Ludwig Huber (University of Vienna, Austria)
“Mechanisms of social learning in marmosets and keas”

(文責：田中洋之)

霊長類学総合ゼミナール 2002

日時：2002年12月6日（金）10：00～17：30
場所：京都大学霊長類研究所大会議室
参加者：約40人

シンポジウム 「真の因果とは？—因果関係を明らかにする研究手法—」

“Noninvasive approaches to the study of the physiological basis of behavior in free-living primates” Gord Barrett

「因果関係の認知」 打越万喜子

「神経発火から行動へ：視覚的注意の一連の研究から」
‘From neuronal activity to behavior: A series of studies in
visual attention’ 猿渡正則

「現象の分子機能を探る：神経栄養因子の生理機能解明
における一連の研究から」 ‘Studies on the molecular
and cellular mechanisms of neuronal phenomena’ 森琢
磨

「大腸菌を用いた霊長類 SOD の発現～発現系は生物保
護に一役かえるか」 ‘Expression of primate SOD in
Escherichia coli’ 福原亮史

【特別講演】

「創ってわかる生命複雑系」 四方哲也 助教授
(Tetsuya Yomo, Ph.D) (大阪大学大学院情報科学研究科,
科学技術振興事業団さきがけ)

【ポスター発表】

- (P-1) 「サルをよく観てもらえたかーガイド活動をふり
かえてー」 郡司晴元 (財団法人日本モンキ
ーセンター) / Harumoto Gunnji (Japan Monkey
Centre)
- (P-2) 「リスザルにおけるサンルームの利用とエンリッ
チメント効果の評価」 桧垣小百合 / Sayuri
Higaki
- (P-3) 「ニホンザルにおける採血協力訓練」 親川千紗
子 / Chisako Oyakawa
- (P-4) 「飼育下ニホンザルと肥満」 高橋知子 / Tomoko
Takahashi
- (P-5) 「農地と森林における食物資源がニホンザルの環
境選択に与える影響について」 山田彩 / Aya
Yamada
- (P-6) 「雄ニホンザルにおける主要インヒピン分泌型と
してのインヒピンB」 伊藤麻里子, 近藤昌弘,
児嶋千尋, 金万洙, 渡辺元, 田谷一善, 清水慶
子, 林基治 / Mariko Itoh, Masahiro Kondo,
Chihiro Kojima, WanZhu Jin, Gen Watanabe,
Kazuyoshi Taya, Motoharu Hayashi, and Keiko
Shimizu
- (P-7) 「発達期マカクサル小脳における神経栄養因子の
分布変化」 託見健 / Ken Takumi
- (P-8) 「報酬と図形の両方をコードする前頭眼窩回ニュー
ロン活動」 細川貴之 / Tadayuki Hosokawa
- (P-9) 「協力的問題解決場面で見られるフサオマキザル
の他者の役割理解」 中山桂 / Katsura Nakayama
- (P-10) 「チンパンジー乳児における微笑の発達」 水野
友有 / Yuu Mizuno
- (P-11) 「新版 K 式発達検査と屋外の水遊び場面におけ

るチンパンジー乳児の定位操作」 林美里 /
Misato Hayashi

- (P-12) 「移動と姿勢保持の発達」 茶谷薫 / Kaoru
Chatani
- (P-13) 「ニホンザルコドモのあそびに関する地域比較」
西村宏久 / Hirohisa Nishimura
- (P-14) 「チンパンジーによる運動の視覚探索」 松野響 /
Toyomi Matsuno
- (P-15) 「ニホンザルの永久歯はいつ生えるのか？」 山
本亜由美・國松豊 / Ayumi Yamamoto & Yutaka
Kunimatsu
- (P-16) 「西ポリネシア・トンガ人における四肢の形態
計測学的特徴 一手足の大きさとかたちとそ
れらと体サイズとの関係ー」 権田絵里 / Eri
Gonda
- (P-17) 「ポンダウン化石哺乳類相」 (始新世; ミャンマ
ー) 鏝本 武久 / Takehisa Tsubamoto

霊長類学総合ゼミナールは大学院生 TA が主体とな
って企画・運営に当たっている。本研究会の目的は霊長
類研究所に所属する所員がお互いの持つ研究分野に関
する研究結果や知見を報告することにより、学術的な交
流を深めることである。今回の研究会は『真の因果と
は?』と題した口頭発表形式のシンポジウムと特別講演
からなり、さらにポスター発表による各自の研究報告を
行った。シンポジウムのテーマの主旨は、多くの研究で
議論されている、あるパラメータの変化と、それに伴っ
て生起される現象の対応関係が、本当の因果関係を表し
ているかを示すために、様々な研究手法を紹介すると共
に、どのような方略を選択することが望ましいかについ
て検証することであった。5人の大学院生が各自の立場
から意見を口頭発表すると共に、最後に大阪大学の四方
先生に講演をお願いした。学問分野にとらわれない大き
なテーマを設定することで、日頃疑問に感じながらも避
けて通りがちな問題について議論できる良い機会を作
れたと思う。ただ、特別講演に比べてシンポジウムの参
加者が少なかった上、時間の都合上総合討論の盛り上が
りが欠けていたことが心残りである。ポスター発表は、
例年通り白熱した議論が行われ、充実したものであった
と思う。

(文責：倉岡康治)